

着

mono 通信

yoroduya

2023・5 vol.56



原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL:0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL:0246-85-5298

みなさまこんにちは！G.Wはどのようにお過ごしになりましたか？今年は桜の開花が早く、花見の季節もあっという間に過ぎてしまいました。我が家のハナミズキも毎年G.Wに満開となるのですが、今年はもう終わってしまいました。春はいずこへ...夏がすぐそこです。夏といえば浴衣ですが、当店では今年から少し浴衣に力を入れてみようかなと思い、5月に新作の浴衣を店頭にてお披露目することとなりました。仕立て上がってすぐに着られる浴衣もコストや手間がかからず魅力的ではありますが、やはり呉服屋としては、マイサイズにお誂えした浴衣を広めたい！また、江戸の頃から技法が変わらない注染の浴衣の色や柄は奥深さがあり、何と言っても品質が間違いないので着心地が抜群なんです！！まさに、大人が着るべき浴衣！

以前から気になっていたメーカーさんとの取引が今年実現できたので、さっそく発注し染め上がってきました。数は多くはありませんが、女将がセレクトした浴衣を楽しみにしてください！夏中ずっと過ごせる浴衣で、ワンランク上の着こなしを実現しましょう～！！私も今年は絶対に新調するんだ～！！

<行ってきました！東京キモノショー2023>

3月24日に「東京キモノショー」日帰りツアーを企画し、行ってまいりました！4名のお客様が参加してくださいました。雨模様の心配もありましたが、午後3時頃まではお天気にも恵まれ着物三昧な一日を楽しんできました！！



お天気が心配でしたが何とか持ちましたので、着物でお出かけしました。日本橋の老舗呉服問屋を見学後、そちらで今半のお弁当をいただきました！（美味しかった♪）会場は日本橋の問屋街周辺から人形町にかけて3つのメイン会場のほか、サテライト会場もあり着物姿のたくさんの方で街が賑やかでした。私たちは、「キモノスタイル」と「マルシェ」の2会場を見学。たくさんの着物のコーディネートを楽しめました。来年2024年の開催予定は、3月29日（金）～31日（日）またみなさんと一緒にしたいと思います！！



よろづ屋でもキモノスタイルに出展しました。（写真左）「温もり感じる手仕事」をテーマに結城紬と花織の帯のコーディネートにしました。こちらのキモノスタイルの様子はYouTubeで見られるようになるとのことなので、またお知らせいたします！



<イベント開催のお知らせ>

いわき店にて、組紐体験会を開催いたします。今回はストラップを作る体験会です。丁寧なご指導のもと、組紐の台を使用して体験します。初めての方も大歓迎です！！

日時：5月29日（月）

10時30分／11時30分／14時／15時 各回1名様限定

受付開始日：5月10日（水）午前10時～（お電話にて受付）

※定員になり次第締め切りとなります。



< にっぽんの色と文様～その5 皐月編～ >

日本の自然や文化から生まれた伝統の色や文様について一緒に学びましょう！

新緑がまぶしい！

五月は本当に大好きな季節！色を楽しみたいです。



NEW



藤色(ふじいろ)

藤は花が風に散る様子を表す「風散(ふぢ)」に由来します。平安時代に藤色として広まり、薄い青紫色の基本色となりました。明治時代、樋口一葉が著した『たけくらべ』には勝気なヒロインの衣装としても登場しています。



流水文 水の流れる様子を文様化したもので、古くは弥生時代の銅鐸(どうたく)に見られます。日本には水を主題にする文様は多く、様々な形で表わされていますが、流水には、風景や草花を添えて用いているものが多数あります。

卯の花色(うのはないろ)

卯の花は、初夏に小さな白い花を咲かせる空木(うつぎ)の別名です。その花のあまりの白さから、平安時代には「雪かまとまごう」と表現されたほどでした。その卯の花のような、ほのかに黄色っぽい色合いが心を落ち着かせてくれます。



紫陽花文 紫陽花は日本固有の花で、「万葉集」にも詠まれているほど早くから知られ、鎌倉時代に演義化されました。青紫色の大きな花が好まれて、江戸時代には陶磁器や蒔絵などの工芸品に琳派が巧みに文様化しています。



花鳥文 花と鳥を組み合わせた文様のことで、正倉院に残されている文様が多く、花や鳥の名前がわからないものをいいます。花鳥唐草文や花鳥天平文などが有名で、染織品によく用いられています。

<きもの語 辞典> あの巻

着物に関して、わからない言葉や知りたい言葉などたくさんあると思います。専門用語が飛び交う中で??に思うことも多々あります。そんな着物にまつわる言葉を集めて簡単にご紹介していくコーナーです。

<麻(あさ)> 着物や帯の材料で、おもに苧麻(ちよま)、ラミー麻などイラクサ科の繊維を総じて麻と呼びます。木綿よりも歴史が古く、江戸時代に木綿栽培が広がるまで、庶民の日常着は麻でした。平織りと縮織りがあり、とくに上質な糸で平織りされた麻織物を「上布」といいます。

<綾織(あやおり)> 「平織り・綾織・縷子織(しゆすおり)」の織物三原組織の一つで、タテ糸またはヨコ糸が浮いて斜め方向に綾線があらわれる織物のこと。「斜文織り」ともいいます。平織りに比べて糸の交差が少なく、伸縮性がありシワになりにくいです。

<袷(あわせ)> 着物の表布に裏布を付けて縫い合わせた着物、および仕立てのこと。男物は通し裏を付け、女物は胴裏と八掛を付けて仕立てる。裏布がない着物は単衣といえます。

今月のおススメ！

～本藍染刺子クロス～
4,180円(税込)



今月のおススメ商品は、本藍染刺子クロスです。天然の本藍染料を使用し、手染めした商品です。絞りの柄にアクセントで刺子が施されたデザインは5パターンあります。大きさは120cm×120cmのたっぷりサイズで、テーブルクロスやソファカバーなどにも使える万能サイズです。ちなみに私は、グランドピアノのカバーに使用しております。また、藍染には虫を寄せ付けない防虫効果もあるので、衣類カバーなどに使用するのもおススメです。ただし、藍染製品ですので色落ちはします。摩擦などでも色落ちしてしまいますので、ご使用前には一度お洗濯をし、陰干していただければと思います。お洗濯の際は色落ちしますので他の物とは分けてください。



…若女将のつづやき…

先日久しぶりに友人たちとお出かけしました。竹駒神社と金蛇水神社で御朱印をいただき、アクアイグニス仙台へ。まず、何十年かぶりに行った金蛇水神社はおしゃれな参道と休憩処ができていてびっくり。今時な空間でカフェやショップが立ち並び、美味しそうなものがたくさん。白蛇をイメージしたソフトクリームをテラスで食べました。ランチはGLICINE di AQUA PAZZA(グリーチネディアクアパッツァ)でイタリアンのコース、そしてコンフィチュールアッシュで名前も発音できないようなケーキを食べ、コーヒーを飲み、牛タン弁当を買って帰りました。もう、店の名前も食べた料理やケーキの名前も全く覚えられない女3人小旅行。しかし良く食べよく遊びました。金蛇水神社の藤がもうすぐ咲きそうでした。今年は早いかも！5月21日まで春の例大祭だそうです！

